



国際サーカス村通信 Vol.19 No.05

2015年6月9日(火)

文責 西田 敬一

編集 NPO 法人国際サーカス村協会

〒376-0303 群馬県みどり市東町座間 41-1

Tel 0277-70-5010 Fax 0277-97-3688 <http://www.circus-mura.net> k-nishida@accircus.com



●ラオスサーカスを見る

5月29日（金）、成田発ハノイ経由でラオスの首都ビエンチャンに入る。ラオスでは6月1日の国際子どもの日に合わせて前後の3日間ほど、ビエンチャンにある国立サーカス劇場でショーが行われるというので、見学に行くことにした。

案内役を、オブジェクトシアターというモノを使った演劇で、ラオスの役者たちとカオニャン（もち米）シアターをつくっているあさぬまちずさんに、お願いした。

5月31日、6月1日の2日間、サーカスショーを堪能。2日には、あさぬまさんがラオス空港の裏手に作ってしまったカオニャンスタジオで、オブジェクトシアターの小作品を3作品ほど見せてもらった。

この時期、ラオスは雨期に入ったところなのだが、なぜか僕の滞在期間は一滴の雨も降らず、あさぬまさんが期間中チャーターしてくれたジャンボ（トゥクトゥク）という、三車輪スタイルの乗り物の運転手さんに、あなたが来たので雨が降らないよと苦虫顔でいわれてしまった。

宿泊したところは、ミクサイパラダイスホテルという名で、ミクサイは地域の名だが、その名の寺院がホテルの目の前にあり、なんとなく天国（パラダイス）にいけそうな名のホテルであった。このホテルから歩いて5分ほどのところにメコン河が流れているが、なにしろ雨が降らないので、流れている水は少なく、泳いで渡れそうであった。但し、遊びのつもりで泳いで向こう岸に行こうとすれば、狙撃されてしまうとのこと。向こうは資本主義の国タイ、こちらは社会主義の国ラオスというわけだ。

それにしても暑い。気温はたぶん、毎日40度前後あったのではないかと思う。ラオスの人々の主な交通手段はバイクなのだが、運転している人々はほぼ長袖を着ている。日焼けを避けてのことだが、中にはフード付きの厚手のトレーナーを着ている人もいて、そんな人々を見ると、一瞬、今は暑い？それとも寒い？と不思議な気持ちになる。

一方、暑いとまいるなどと思って入ったサーカス劇場は冷房が効いていたので、大助かり。1990年頃、ベトナム、ソ連などの援助を受けて作られたという話しであったが、1990年頃であればソ連は混乱期だ。とても本格的な援助はできなかつたにちがいないといったことが頭をよぎる。多分、モンゴルのサーカス劇場は全面的にソ連が援助して作ったと思えるので、こうしたことにも時代の流れを感じる。サーカス劇場の作りは、ほぼ鉄骨がむき出しで、屋根は厚手にトタン板の張り合わせで、建物の内側は布で鉄骨と鉄骨の間を覆っている。劇場としてみれば、安普請というよりもうまく作っているなといった感覚になった。ショーそのもの、演出に特段の新鮮さ、あるいは民族性なものをあまり感じなかったが、それでも、男女ペアが空中で演技する技で使われている鉄の棒をステージに持ちだすとき、龍船の競技大会の祭りの雰囲気、皆が躍りながら道具を持ちだすシーンなどに、ラオスらしさを感じることができ、楽しかった。それと、このあたりの国々のサーカスに登場する大蛇も異彩を放っていた。

先に触れたオブジェクトシアターカオニャンの作品は、ヤシの実やブリキのじょうろ（如雨露）を使った小作品で、ベースに流れているのはラオスの霊・ピーのようだ。こうした前近代的あるいはさらに昔からの文化的なものを、近代の身体表現のひとつとして磨かれてきたサーカス技とどのようにジョイントさせていくか。そのあたりに今後のサーカスの課題があるのではないか。今回のラオス訪問でそのようなことを考えてみた。

現代のサーカスがグローバル化することで、資本主義的現代文明のなかで、いわばその一翼を担った文化になっていることに疑いを感じるのであれば、こうした視点に立って、サーカスをもう一度見直す必要があるかもしれない。（西田敬一）



(最上)ラオス国立サーカス劇場
 (上左)テント回りに並ぶ出店
 (中)バランス芸を行う女性
 (上右)出ました、大蛇！
 ←カオニャンシアター
 →メコン河の魚捕り



←ラオスの義弟(?),そしてぼらの父(木彫り)と。
 →ジャンボータクシー。傍らに立つのはあさぬまちずこさん。



●サーカス学校 夏の発表会は7/18（土）、19（日）に行います。

生徒たちの日ごろの練習の成果をご覧ください。みなさん、ぜひお誘い合わせのうえお越しください。

◆時間 7月18日（土）15:00、19日（日）13:00 ◆場所 沢入国際サーカス学校 体育館

◆観覧無料 カンパ大歓迎です！

●沢入国際サーカス学校 卒業生・出身生インタビュー

⑤ Naoto (2007年9月入学 2009年7月まで在学)

◆卒業後の進路・今やっていること

ヨーヨーアーティスト。2009年9月より東京でパフォーマー活動を始めました。

最初は路上での無許可大道芸+ヘブンアーティスト活動が主でしたが、様々な場所の大道芸ライセンスを取得したり、イベント会社に声をかけてもらったりして、少しずつ仕事を増やしていきました。

今は一年のほとんどをドイツで過ごし、ヨーロッパを中心に活動しています。

夏はヨーロッパ中の大道芸フェスティバルに招待されることが多く、秋から冬にかけてはドイツの様々なシアターでショーをしています。

また、日本でシアターショーの文化を創りたいと思っており、日本にいるときは自分のパフォーマンス活動の傍ら、プロデュース公演もしています。

サーカス学校出身の仲間たちを集めて、サーカス集団『イル・スペオペレ』を立ち上げました（2013年）。ほかにも、パフォーマーを集めてライブハウスや劇場でパフォーマンスライブを行ったりしています。

◆プロフィール

現在はドイツの事務所「RUDI RENNER AGENTUR」と契約中。

イタリア、オランダ、ドイツ等のアーティストフェスティバルに参加し、現在まで、出場したコンテスト形式のフェスティバルでは全て優勝してきました。

2011年にヨーヨーの世界大会で二度目の世界チャンピオンになり、国内だけでなくヨーロッパでも名前が知れ渡ってきたと実感することが多い今日この頃です。

国内では全国大会で三度優勝しており、手にしたメダルは三十個以上を数えます。

アーティストとしてだけでなく、コンテスト（大会出場者）としても活動しています。

ショッピングモール、パーティー、結婚式等でショーを行うのと並行して、日本ヨーヨー連盟のメンバーとして大会の運営活動を行ったり、レクチャーDVD作成、セミナーや講義の開催等、ヨーヨーを文化として浸透させる為の活動も積極的に行っています。

◆在学中の思い出・在校生へのメッセージ

僕がサーカス学校に入ったのは二十歳になる年でした。それまでアクロバットや倒立、ダンス等全く経験がなかった僕は、簡単な技もうまく出来ない、いわゆる落ちこぼれ生徒でした。

自分としても身体を動かす事にセンスを感じることが出来ず、本当にこれでプロのパフォーマーになれるのか？と自問自答しながら練習していたのを覚えています。それでもナー ज्या先生は諦めることなく毎日厳しく指導して下さいました。

その甲斐あって、2年間で入学当初とは比べ物にならないほど身体が動くようになりました。今の自分があるのは間違いなくこの学校のお陰だと思っています。

◆在学生へのメッセージ

一年生、二年生の皆さんへ。何も考えず、自らの身体と芸を育てる事にひたすら没頭してください。経験者の僕たちはそれがとてつもなくキツイ事だと知っていますが、乗り越えた先に手に入れられる物も知っています。一日一日を大切に、これからも頑張ってください。

三年生、四年生の皆さんへ。卒業後の進路の事は考えていますか？サーカス学校では卒業後、どういう進路を歩むか自分で決めなければいけません。今、日本には様々な形でパフォーマーとして生きている人たちがいます。自分を含め、海外を拠点に活動する日本人パフォーマーも沢山います。いろんな先輩方を参考にしながら、自分に合った生き方について考えてみてください。

当協会 FaceBook ページ <https://www.facebook.com/circusmura>



写真（左）アメリカで開催されたヨーヨー国際大会にて。（右）2009年夏の発表会時。中央・上が Naoto。

最新 サークス公演情報

★木下大サーカス

●京都公演 公演期間 2015年7月18日(土)～2015年9月23日(水・祝)

●休演日：毎週木曜日と7/22(水)、8/12(水)、9/16(水)。但し8/13(木)は開演。

●会場：JRA 京都競馬場 特設会場 ●電話：京都公演事務局 TEL075-352-0225 (7/10まで)

★ポップサーカス

●郡山公演 公演期間 2015年7月4日(土)～2015年8月23日(日)

●休演日：毎週水曜日 ●会場：ショッピングモールフェスタ大テント

●電話：郡山公演事務局 TEL024-926-0045 (7/1より)

★エキスポ・サーカス

愛・地球博から10年…。あの感動がかえってきます！4カ国9名のアーティストたちが繰り広げるステージはまさに万博☆それぞれの文化が光る。エキスポの魅力満載のサーカスショーをお楽しみください！※入館料のみでご覧いただけます。

●公演期間 2015年3月14日(土)～2015年6月21日(日)

●公演時間 平日：11:30/14:00、土日祝：11:00/13:00/15:00 (各回40分)

●休演日：毎週火曜日 ●会場：野外民族博物館リトルワールド 野外ホール ●電話：0568-62-5611

その他公演情報

★サクノキ ソロ公演 『長くつを履くまで』

沢入国際サーカス学校卒業生で、現在はキューブ・アクロバットやスタッフ、ハットジャグリングなどを行うサーカスエントーターティナーや道化師として大道芸やフェスティバル、舞台公演などで活動中のサクノキ、初のソロ舞台公演です。

●期間；2015年6月19日(金) 15:00/20:00、20日(土) 14:00/19:00

●チケット；前売2,000円 当日2,500円 ●会場；APOCシアター(小田急線「千歳船橋」駅徒歩1分)

●お問い合わせ；saku_noki@yahoo.co.jp

★イル・スペオピーレ 『be Animal』

沢入国際サーカス学校出身者のみにより結成。現代サーカスのカンパニー、イル・スペオピーレ。

今回は演出の渡邊翼とジャグラーのハチロウのたったふたりによる、ジャグリングを基盤にしたサーカス作品です。ただ投げるではなく、ただ動くだけでもない。野生的にとげとげしくも、確かな技術に裏打ちされた本公演が放つ新たなサーカスの魅力にぜひ触れてみてください。

●期間；2015年6月26日(金) 19:00、27日(土) 14:00/18:00 ●会場；中野テルブシコール

●チケット；前売2,000円 当日2,500円 ●お問い合わせ；beanimal6@gmail.com

★京本千恵美ソロパントマイム公演 「ここはどっちへ？」

人生が旅なのか、旅が人生なのか。一日が始まり、メモに書いていた今日の用事に取りかかる。

外を出れば、今日はどっちへ？ここはどっちへ？ ●期間；2015年7月4日(土) 18:30、5日(日) 14:00

●チケット；大人 前売2,000円、当日2,300円 高校生以下前売り1,000円、当日1,300円

●会場；天シアターやまんね(埼玉県秩父郡、横瀬町民グラウンド上)

●ご予約・お問い合わせ；chichibu.yoyaku@gmail.com Tel090-2145-1289(磯田)

★富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ「サーカス・バザール」

ひと夏ごとに盛り上がりが増す、感動と興奮の2日間！「地産地消」を合言葉に、市内の農作物や特産品を扱うバザールと、サーカスや大道芸人たちが多種多彩なパフォーマンスを繰り広げます。今年のショー(有料)には、世界で活躍するロックダンスユニット『Hilty&Bosch』が登場！ジャズ・ファンク・バンド『ブラックエレファント』の生演奏や、空中芸などのサーカスアクロバットも。

●期間；2015年7月11日(土)、12日(日) 両日ともに10:00～15:00 キラリ☆ふじみ全館で、かぼちゃサーカス団によるパフォーマンス(パレードや水上ステージ)が行われます。

●ショー(有料)；11日(土) 14:30 12日(日) 12:30 一般1,000円 中学生以下500円

●ジャグリングワークショップ；両日ともに11:30より30分間 料金500円 対象；小・中学生

●会場；富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ(埼玉県富士見市) ●お問い合わせ Tel049-268-7788